

平成22年度  
行政審査報告書

太田市行政審査委員会

# 目 次

はじめに	1
1 審査の対象	2
2 審査の期間	2
3 審査の方法	2
4 審査の概要	2
(1) 審査の目的	2
(2) 審査の視点	3
① 観光行政におけるハード面（インフラ）について	
② 観光行政におけるソフト面（サービス）について	
③ 本市観光資源の利活用や開発について	
5 審査の経過	3
(1) 本市における観光行政の現状について	3
(2) 本市年間観光客数の分析について	8
(3) 行政視察について	9
① 富士重工業スバルビジターセンター、工場視察	
② 本市観光施設の行政視察	
(4) 本市における観光行政の課題について	12
① ハード面（インフラ）の課題について	
② ソフト面（サービス）の課題について	
6 審査の結果	13
7 審査に基づく提言	14
8 開催経過	18

## はじめに

観光は、まちが発達、発展していく上で、議論されなければならない大変重要なテーマである。

なぜなら、観光は経済波及効果が高く、観光事業を充実させることにより、観光する人、受け入れる人、双方に多大なメリットをもたらし、まちを活性化させ新たな投資を呼び込む起爆剤になるものだからである。少子高齢化の進展により、人口減少社会が到来した日本において、観光事業の充実は、地域における消費活動の増加や新たな雇用創出をもたらすことが注目され、さらに成長するアジア諸国等の活力も取り込み、今後、観光産業に対する期待は大きい。

国は、2010年までに訪日外国人旅行者数を1,000万人、2020年までに2,000万人にし、日本人海外旅行者数を2010年までに2,000万人にするという目標（観光庁アクションプラン）を掲げており、群馬県は、2012年度に群馬県への観光客総数を7,000万人、宿泊客数を900万人、外国人旅行者数を11万人にするという目標（はばたけ群馬観光プラン）を設定した。

本市においては、平成19年に「新生太田総合計画」が策定され、平成23年度までに市内年間観光客を3,758,900人にするという目標が定められた。

国、県、市において、観光事業に取り組む上で、数値目標を設定することは大変意義のあるものであるが、目標を掲げるだけでなく、その目標を達成するための手段や方法、過程を議論し、その目標値に近づけていく不断の努力が求められよう。

このようなことから、本委員会は、本市における観光行政について取りまとめることとする。さらには、歴史的な文化財や経済システムなど関連する事項にあわせての見解などを含め、地域、市民、事業者、行政との協働・連携を呼びかけていくことも意図した。

さらには、本市の観光事業に関する現在の取組みの検証と、今後の展開に係る計画の先見性等を明確にすることを目的とし、観光施設等の現地調査や、所管課に対するヒアリング等を行い審査の結果を取りまとめたものである。

平成23年1月

太田市長 清水 聖 義 様

太 田 市 行 政 審 査 委 員 会  
会 長 竹 沢 悦 男  
同代理 相 澤 進  
委 員 茂 木 真 和  
委 員 眞 下 法 久  
委 員 青 木 正 人  
委 員 倉 嶋 慶 秀

# 1 審査の対象

観光行政について

# 2 審査の期間

平成22年4月13日から平成23年1月17日までの期間

# 3 審査の方法

上記1の審査の対象項目について、下記9項目の内容に沿って行われているかに着目し、審査の過程において必要資料の提出を求め、また、関係課長または担当職員の出席を求めて、疑問点その他について説明を求めた。

- (1) 行政運営が能率的、効率的に行われているか
- (2) 行政目的を効果的に達成するための経費に無駄はないか
- (3) 組織は合理性が図られているものとなっているか
- (4) 法律あるいは条例等にもとづいて適法に事務が行われているか
- (5) 事後的に、その事務事業が効率的に行われているか
- (6) 職員の配置、組織のあり方は、効率的に行われているか
- (7) 職員のサービス、定数管理は妥当か
- (8) 住民の苦情処理は適切に処理されているか
- (9) 計画は、先見性をもって策定され、必要に応じて見直しが行われているか

# 4 審査の概要

## (1) 審査の目的

観光は、少子高齢化による人口減少社会において、経済活動が期待される21世紀の主要産業の1つとされている。

観光活動の活性化は地域における消費活動の増加や新たな雇用の創出等、観光事業の経済波及効果は大変高いものである。

本市における観光行政においては、平成23年度までに市内年間観光客を3,758,900人にするという目標が定められているが、この目標を達成するための観光事業の今までの取り組みと今後の対応方針、新たな取り組みがなされているか等に視点を当てて検証、審査を行うことを目的とした。

## (2) 審査の視点

今年度審査においては、観光行政におけるハード面やソフト面、本市が有する観光資源について視点を当て、審査をした。それらについて総合的に審査し、本市における観光行政の現状等を分析した。

### ① 観光行政におけるハード面（インフラ）について

観光客が利用する交通手段や宿泊地、道路の整備、案内表示等、社会資本及び民間資本が整えられているか。

### ② 観光行政におけるソフト面（サービス）について

本市に関する観光のPR活動を県内、県外に対し、十分に行っているか。また、本市を訪れた観光客を観光業に携わる全ての人がおもてなしの心を持ち、観光客に接することができるか。

### ③ 本市観光資源の利活用や開発について

本市は、金山や新田荘遺跡、天神山古墳、高山彦九郎記念館、世良田東照宮など、歴史的観光資源を多く有している。それら観光資源が有効に利用されているか。

また、より一層の観光客集客やリピーターの増加のため、観光資源の新たな開発は検討しているか。

## 5 審査の経過

### (1) 本市における観光行政の現状について

本市は、利根川と渡良瀬川の豊かな水の恵みと金山八王子丘陵の緑を有し、新田氏や徳川氏ゆかりの史跡等が点在し、おおた芝桜まつりや、尾島ねふたまつり、にった花トピアややぶ塚かかし祭り等のイベントを通じて、多くの観光客が訪れている。

本市への年間観光客数の推移については、群馬県が公表している市町村別観光入込客数に基づいており、以下の表のとおりである。

(表1)

(表1) 年間観光客数

(単位:人)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
年間観光客数	2,404,006	2,329,237	2,674,376	3,221,073	2,964,756
前年比増減数	—	▲74,769	345,139	546,697	▲256,317

本市の年間観光客数の観光事業別及び観光施設別の内訳は以下の表のとおりである。(表2、表3)

(表2) 観光事業別年間観光客数

観光事業名	開催日	会場	H21年度 観光客数 (人)
おおた芝桜まつり	3月下旬～4月下旬	太田市北部 運動公園	150,000
関東山野草展	4月28日～5月5日	大光院境内	80,000
太田市民さつき祭	5月最終土曜日 から 10日間開催	大光院境内	80,000
おおた夏まつり	7月下旬の 土・日曜日	太田駅北口・南口	170,000
藪塚まつり	8月第1土曜日	藪塚本町中央 運動公園	3,500
新田まつり	8月第2土曜日	新田中央公共地区	35,000
尾島ねふた祭り	8月14日、15日	尾島商店街大通り	150,000
にった花トピア	9月下旬～ 10月中旬	新田文化会館・ 総合体育館周辺	184,000
おおたイルミネーション	10月中旬～ 1月上旬	太田市北部 運動公園	71,200
関東菊花大会	10月25日～ 11月25日	大光院境内	100,000
やぶ塚かかし祭り	10月上旬	三島神社公園 及び周辺	45,000
RCページェント	11月3日	尾島RCスカイポート	40,000
計			1,108,700

(参考)

観光事業名	開催日	会場	H21年度 来場者数 (人)
太田スポレク祭	10月下旬の 土曜日・日曜日	太田市運動公園	175,000
太田市産業環境フェスティバル、消費生活展	11月第2日曜日	太田市新田文化会館、総合体育館	30,000

(表3) 観光施設別年間観光客数

観光施設名	場所	H21年度 観光客数 (人)
金山	太田市金山町	233,500
大光院新田寺	太田市金山町	361,000
金山ガイドンス施設	太田市金山町	32,752
ぐんまこどもの国	太田市長手町	580,354
長楽寺・世良田東照宮	太田市世良田町	77,621
新田荘歴史資料館	太田市世良田町	15,121
縁切寺満徳寺資料館	太田市徳川町	12,526
反町館跡	太田市新田反町町	89,900
生品神社	太田市新田市野井町	16,800
大慶寺	太田市新田大根町	58,400
ポタニックガーデン	太田市新田市野井町	40,477
藪塚温泉	太田市藪塚町	42,910
スネークセンター	太田市藪塚町	30,472
三日月村	太田市藪塚町	27,435
太田市民ゴルフ場	太田市只上町	16,140
太田市民パークゴルフ場	太田市只上町	40,376
上武ゴルフ場	太田市徳川町	64,525
鳳凰ゴルフ倶楽部	太田市北金井町	59,047
太田双葉カントリークラブ	太田市西長岡町	56,700
計		1,856,056

本市の年間観光客数の観光事業別及び観光施設別の推移は以下の表のとおりである。(表4、表5)

(表4) 観光事業別年間観光客数の推移

(単位：人)

観光地点名	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
緑化フェア (芝桜まつり)	—	—	—	249,000	150,000
関東山野草展	※1	※2	※3	※4	80,000
太田市民さつき祭	※1	※2	※3	※4	80,000
太田夏祭り	(180,000)	(180,000)	110,000	170,000	170,000
藪塚まつり	(3,000)	(3,000)	3,000	3,500	3,500
新田まつり	(34,000)	(34,000)	30,000	35,000	35,000
尾島ねふた祭り	100,000	120,000	120,000	140,000	150,000
太田市花火大会	不開催	(210,000)	200,000	150,000	不開催
新田花トピア	222,000	176,000	184,000	184,000	184,000
おおたイルミネーション	—	—	—	—	71,200
関東菊花大会	※1	※2	※3	※4	100,000
かかし祭り	50,000	45,000	45,000	45,000	45,000
RCページェント	45,000	35,000	40,000	45,000	40,000
計	417,000	376,000	732,000	1,021,500	1,108,700

※1：表5におけるH17年度の大光院新田寺の816,500人に含まれている。

※2：表5におけるH18年度の大光院新田寺の840,000人に含まれている。

※3：表5におけるH19年度の大光院新田寺の827,000人に含まれている。

※4：表5におけるH20年度の大光院新田寺の784,000人に含まれている。

(注)括弧内の数値は、群馬県が公表している市町村別観光入込客数のデータに基づくものではないが、当委員会で調査した数値であり、計には含まれていない。

(表5) 観光施設別年間観光客数の推移

(単位：人)

観光地点名	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
金山	170,500	170,000	165,100	180,600	233,500
大光院新田寺	816,500	840,000	827,000	784,000	361,000
金山ガイドンス施設	—	—	—	—	32,752
ぐんまこどもの国	536,717	513,116	536,943	570,980	580,354
長楽寺・世良田東照宮	100,667	97,101	91,060	76,929	77,621
新田荘歴史資料館				13,436	15,121
縁切寺満徳寺資料館	9,753	8,770	8,706	11,697	12,526
反町館跡	118,300	114,600	110,600	126,500	89,900
生品神社	7,700	7,600	7,550	9,300	16,800
大慶寺	87,500	79,500	81,400	62,500	58,400
ボタニックガーデン	(35,000)	(32,000)	(33,000)	22,342	40,477
藪塚温泉	66,378	59,806	55,999	52,753	42,910
スネークセンター	38,043	32,763	27,188	29,275	30,472
三日月村	34,948	29,981	30,830	26,877	27,435
太田市民ゴルフ場	(16,729)	(15,514)	(16,205)	16,040	16,140
太田市民パークゴルフ場	(16,152)	(21,973)	(32,111)	37,786	40,376
上武ゴルフ場	(51,657)	(59,826)	(55,010)	59,334	64,525
鳳凰ゴルフ倶楽部	(52,389)	(55,825)	(58,769)	62,052	59,047
太田双葉カントリークラブ	52,136	53,301	55,355	57,172	56,700
計	1,987,006	1,953,237	1,942,376	2,199,573	1,856,056

(注) 括弧内の数値は、群馬県が公表している市町村別観光入込客数のデータに基づくものではないが、当委員会で調査した数値であり、計には含まれていない。

## (2) 本市年間観光客数の分析について

平成19年度、20年度における年間観光客数は前年度と比較し増加しているが、平成21年度の年間観光客数は平成20年度と比較すると約26万人の減少であった。(表6)

要因として、太田市花火大会の不開催やおおた芝桜まつりの観光客数の減少が挙げられる。

しかしながら、平成21年度から開催されているおおたイルミネーション等、観光客誘致のための新たなイベントの取り組みが開始されている。

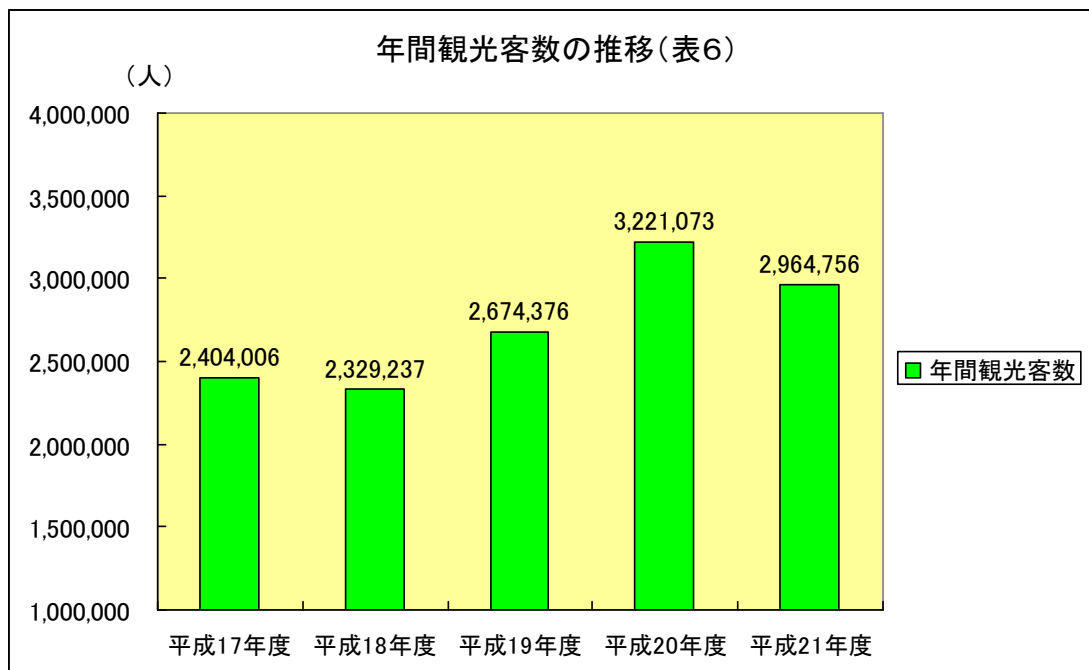
平成19年に策定した「新生太田総合計画」では、平成23年度までに年間観光客数を3,758,900人にするという目標が設定されている。

これを実現するためには、平成22年度、平成23年度それぞれで、397,072人ずつの年間観光客数の増加が必要とされる。

そのためには、現在開催されているイベントの見直しや新たな行事の掘り起こし等が求められるであろう。

イベントの見直しをする際には、そのイベントが行われる度に評価、分析等がなされ、次年度に改善、工夫がされているか、真摯に取り組んでいく必要がある。

新たな行事の掘り起こしとして、本市の観光資源の有効利用するための見直しや、新たな観光資源の開発、新たなイベントの開催など、年間観光客数を増やす努力が重要とされる。その際には、費用対効果の観点から当該事業を取捨選択し、精査していかねばならないだろう。



### (3) 行政視察について

平成22年5月25日及び9月17日に観光行政に係る行政視察を行った。行政視察の内容について、以下で論じることとする。

#### ① 富士重工業スバルビジターセンター、工場視察（5月25日）

行政審査委員会の今年度の審査テーマである「観光行政」について、企業活動と観光の融合という観点から産業振興による観光政策として富士重工業のスバルビジターセンター、工場視察を5月25日に行った。

スバルビジターセンターは2003年7月15日にオープンし、工場見学等で矢島工場来訪者へスバルの歴代の車や世界記録を樹立した車や、スバルの個性的な技術や環境への取り組み等を展示し、紹介している施設である。スバルのモノづくりを知ってもらうために設立され、**現在では年間10万人を超える来場者を迎えている。**

スバルビジターセンター、工場を無料で見学することができることは産業振興による観光政策として大きな役割を果たしていることだろう。

#### (参考) スバルビジターセンター展示車

スバル360	スバル1000
スバルレオーネエステートバン 4WD	スバルサンバー
スバルブラット	スバルR-2
レガシィツーリングワゴン	レックスコンビ
ステラ	スバルR1e
G4eコンセプト	スバルB9スクランブラー (ハイブリッドスポーツカー)
P-1スバル1500	インプレッサWRC2000

## ② 本市観光施設の行政視察（９月１７日）

行政審査委員会の今年度の審査テーマである「観光行政」について、本市は新田氏、徳川氏ゆかりのまちであるという歴史的背景もあり、観光施設を多く有している。行政審査委員会における今後の審査、議論を発展させるため、複数の観光施設を実際に訪れた。視察先は、史跡金山城跡ガイダンス施設、高山彦九郎記念館、世良田東照宮、太田市観光案内所とした。

視察先を考慮していく中で、本市内における観光施設、文化財施設の豊富さを実感した。金山や新田荘遺跡、天神山古墳、スネークセンターや三日月村等、多くの観光施設、文化財施設があり、本市には市外、県外から観光客を集客することができる観光資源があることを再認識することができた。

しかしながら、B-1グランプリにより有名になってきた太田焼そばを食べることができるお店や本市のお土産物産店が太田駅周辺にないことや、鉄道利用者に対するバス交通手段が不足していること、太田市観光情報のPRが多くされていないこと等、課題も多くあるように感じたため、今後は、鉄道利用者へのバスやレンタカーなどの2次交通手段の整備や太田市観光情報の積極的なPRなどを充実させていく必要があるだろう。

### (ア) 史跡金山城跡ガイダンス施設

史跡金山城跡ガイダンス施設は、史跡としての金山城を紹介することを目的に、また、併設されている金山地域交流センターは地域住民の交流や社会活動、金山散策の休憩の場を提供することを目的に、平成21年5月30日に開館した。史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センターは著名な建築家である「隈研吾（くまけんご）氏」により設計、建築されたことでも有名である。史跡金山城跡ガイダンス施設では、コンパクトにまとめられた5分間のビデオ上映やゲームによる金山紹介、当時の合戦や食事の模型展示等、金山を初めて訪れる方に対し分かりやすい説明がされる工夫がされていた。こうしたことから、訪問者は「建築を見る人、歴史が好きな人、金山の散策をしている人、地域住民で地域活動をする人」等に分類されるとのことであった。

#### (イ) 高山彦九郎記念館

高山彦九郎記念館は、江戸時代中期の勤王思想家である高山彦九郎の研究・情報発信することを目的に、平成8年5月3日に開設された施設である。高山彦九郎は尊王運動の先駆者として後世の幕末の志士たちに大きな影響を与え、明治維新を導いたと伝えられており、諸国を行脚して尊王論を説いたことや、祖母りんの墓前で3年の喪に服した服喪の行為が有名である。また、京都の三条大橋に高山彦九郎の拝礼像が建立されていることから、高山彦九郎は京都においても有名とのことであった。高山彦九郎記念館では、太田市行政サポーターズによる館内ガイドを導入しており、高山彦九郎について市民への説明を行っていた。このように市民が行政サポーターとして、観光案内業務に携わり観光客に接することは、観光都市としてのあるべき姿であろう。

#### (ウ) 世良田東照宮

世良田東照宮は、長楽寺住職天海僧正の発願により日光東照宮の旧社殿が旧長楽寺境内に勧請された神社である。世良田東照宮禰宜（ねぎ）によると、世良田東照宮は土地・建物・宝物が国指定重要文化財とされている県内唯一の場所であるとのことであった。本殿や拝殿の重要文化財や、徳川家康公の13歳の頃の鎧や大鉄燈籠等の宝物を見学し、世良田東照宮の歴史を感じることができた。近年は、徳川氏ゆかりの地として観光客が訪れるだけでなく、神前結婚式を行うなどしているとのことである。

#### (エ) 太田市観光案内所

平成18年度に東武鉄道の高架化・太田駅駅舎の改修・南北自由通路の開通等が完成したことにより、太田市観光案内所が太田駅構内に設置された。太田市観光案内所は太田市商業観光課が太田商工振興連合会へ委託契約し、管理、運営されている。太田市観光案内所では、周辺市町村の観光情報の提供やイベント案内、パンフレットの配布を行うとともに、本市を訪れた方に対し、太田市の観光に係るPRをしているとのことであった。

#### (4) 本市における観光行政の課題について

##### ① ハード面（インフラ）の課題

- (ア) 本市を訪れる観光客に対するバスやレンタサイクル等の2次交通手段が整備されていない。
- (イ) 観光施設の駐車場が少ない。
- (ウ) 観光施設の案内表示板の数や外国語標記された標識の数が少ない。
- (エ) 自動車交通が発達していることもあり、徒歩や自転車等の交通手段で観光施設を訪れる観光客利用の道が狭い。
- (オ) 北関東道全線開通による地理的優位性を視野に入れ、既存の観光施設の見直しや新たな観光施設の計画を議論していく必要がある。

##### ② ソフト面（サービス）の課題

- (ア) 本市の観光テーマや観光の核となる事業が不明確である。
- (イ) 本市の観光に対するPRが不足していることから、県外、国外に対する情報発信（テレビや新聞、インターネット等）を今以上に進める必要がある。
- (ウ) 太田駅構内にある観光案内所が有効に利用されていない。本市の物産や土産品の展示、販売をする場所が設置されていない。
- (エ) 本市には藪塚温泉という温泉地域を有しているが、藪塚温泉へのアクセスの不便性、PR不足等から、観光客の宿泊客数が少ない。
- (オ) 日本3大焼そばの1つとして太田焼そばをPRし、観光客に対し太田焼そばを明確に訴えていくためにも、太田焼そばの定義をはっきりさせる必要がある。
- (カ) 観光業者とタイアップした年間を通じた観光コースが不足している。
- (キ) 各観光案内パンフレット等について、観光客が望む情報提供等、検討の余地がある。
- (ク) 本市内においては、地域振興活動は活発であるが、観光政策として、外（国内、国外）から人を呼び込むという発想が欠けていることが考えられ、本市全体で観光客を歓迎するおもてなしの心を持ち、観光事業の必要性を認識していく必要がある。

## 6 審査の結果

本委員会において、観光行政を行政審査テーマとし、議論や観光所管課に対するヒアリング、観光施設の行政視察を重ねてきたが、その中で本市における観光事業に係る多くの課題が見受けられた。

ハード面（インフラ）やソフト面（サービス）は前述のとおりであるが、まず、根本的な問題として、観光に対する本市全体の意識改革をしていかなければならないだろう。これは、行政だけでなく、民間事業者、地域の人々が観光事業に対する必要性の認識を再確認し、その意識の構築があらゆる観光事業施策に先立つものとするべきである。

本市は関東屈指の製造品出荷額を誇る工業都市であるが、2007年のサブプライムローン問題、2008年のリーマン・ショックを起因とする金融危機の影響により、本市経済における地盤沈下が顕在化してきており、工業に頼るという現在の体制を少なからず見直す必要があるだろう。

もちろん、工業都市である本市における第2次産業の重要性は今後も変わることはないだろうが、第3次産業の、とりわけ観光産業をさらに充実させていくべきである。

なぜなら、冒頭で述べたように少子高齢化が進展し人口減少社会が到来した日本においては、観光産業の充実は、地域経済の消費活動を活発化させ、また新たな雇用の創出、インフラ産業の需要増、更なる投資の呼び込み等、多くの経済効果を期待することができるからである。

本市の観光事業の大きな課題として、観光テーマやターゲットが不明確であり、さらに、観光産業のPR不足が挙げられる。本市の観光案内としてホームページや広報誌、他のメディア等でPRしているが、未だ不足しているように思える。

例えば、縁切寺満徳寺資料館は民放テレビ局の取材を受け、数回にわたりテレビ放送された。このことにより、観光客数は大幅に増加したとのことから、テレビ放送によるPRの影響は大きいものと考えられる。

テレビに限らず、他のメディア等を通じて、観光のまちとして売り出し観光客を増加させていかなければならないだろう。

また、前述したように本市は工業のまちであり、その中でも富士重工業が大きな割合を占める。富士重工業のスバルビジターセンターでは、工場見学を実施しており、観光施策としても有効に成立していると考えられる。工場見学により観光客を本市に呼び込むこととなり、これは太田市のPRや、スバル車の製品の購入意欲の喚起、消費活動等を後押しするものである。

このような企業活動と観光産業の融合は本市独特のものであり、工業都市と観光都市を両立させるため、今後も行政としてサポートしていくべきであろう。

## 7 審査に基づく提言

本市を観光自治体として構築するために、まず地域（市民）、民間事業者、行政のあらゆる人々の観光に対する意識改革をしていくことが重要であるとともに、本市を観光自治体として創出するための手段として、観光PR活動の充実、観光客受入体制の拡充や本市観光資源の開発等、限られた財源で観光産業を充実させていかなければならない。予算に限りがある以上、観光施策に対する費用対効果の見極めは大変重要になるが、その見極めについては、行政だけで判断するのではなく、地域（市民）・民間事業者・行政の3者が議論し、それぞれの視点から多角的に分析、判断していく必要がある。そのため、3者が効果的に議論することができる場の構築や体制づくりが求められ、3者それぞれの役割と責任を明確化させ、民間事業者や地域との協働関係は不可欠である。

### （1）観光産業に対する意識改革

観光産業の拡大は本市経済において、重要課題の1つであるという認識を本市全体で共有していく。

具体的には、本市を観光のまちとして全国的にPRしていくことや、太田市観光基本計画の策定等、行政が強く働きかけ、本市における観光都市としての機運を醸成させていくべきである。

### （2）PR活動の強化

テレビや新聞、インターネット等、マスメディアによる広報媒体を活用し、本市観光資源、観光施設を県内にとどまらず、県外、世界へとPRすることが必要である。

PR活動を充実させていくことは、時間と手間と費用が必要とされ、直ちに効果が表面化するものでないかもしれないが、いくら魅力的な観光資源を有していてもその情報が発信されなければその観光資源は埋もれてしまうこととなる。

そのため、長期的視野を持ち、先を見据えた視点からPR活動は行われなければならない。

その際には、行政が先頭に立ち、PR活動を行うことが望ましく、また民間事業者や地域住民等と連携し、多方面から本市の観光資源及びその魅力等を伝えていく必要があるだろう。

### (3) 観光客受入体制の拡充

- ① 本市の玄関口である太田駅構内にある観光案内所の規模を充実させ、観光客が利用しやすくするべきである。例えば、観光案内所に観光ガイドを常駐させることや観光案内所の休日の営業時間の延長、指定管理者制度の導入なども検討するべきである。
- ② 鉄道利用者等の2次交通手段としてバスやレンタカー、レンタサイクル等を充実させ、また、徒歩や自転車により観光施設へ移動する観光客のためにも歩行者専用道路、自転車優先道路を整備するべきである。
- ③ 車で本市を訪れた観光客のため、観光施設付近の道路の拡幅工事や駐車場の整備を進めていく必要がある。
- ④ 藪塚温泉を観光宿泊客の拠点となるように整備、活用する。
- ⑤ 外国人観光客のため、外国語標記の観光施設案内標識や観光案内パンフレット、外国語を話すことができる観光ガイドの設置等に取り組む必要がある。

### (4) 本市観光資源の開発、発展

- ① 日本3大焼そばの1つである太田焼そばが県外から観光客を集客できるような観光資源に発展するように取り組む必要がある。上州太田焼そばのれん会等、太田焼そば関連団体と今後の太田焼そばのあり方について、議論していくことが求められる。
- ② 本市には様々なイベントがあるが、核となるような観光施設や観光サービスが見受けられないように感じる。1日滞在することができるような観光施設の設置等に取り組む必要がある。
- ③ 本市においては尾島ねふた祭り等、多くのイベントが開催され、多くの観光客を集客している。そのようなイベントで高校生や大学生の若い人たちに積極的に参加してもらえれば、より活気のあるものになるため、若い力を取り込むという考えは重要である。本市には太田市立商業高等学校や関東学園大学が立地しているのであるから、学校と連携し、学生等の若い人たちがイベントに参加しやすくなるような環境を行政は整備していかなければならないと考える。

- ④ 本市は群馬県内でも有数の農業産出額を誇り、農業が盛んなまちでもある。太田焼そば以外にも、やまといもや紅こだまスイカ等、県外にも有名な農産物があるため、2次産品として加工し、新たな特産物として開発し、食による観光資源の開発を行う。具体的には、やまといもをせんべえにする等、新たな商品を開発することが考えられる。その際には、規格外のやまといもや利用しない部分を原材料とすれば、コストを低く抑えることができるだろう。
- ⑤ 本市は新田氏や徳川氏ゆかりの史跡や歴史的文化財、古墳等を多く有するため、このような歴史的価値を持つ観光資源等を中心として本市の観光テーマを定め観光事業の開発を行う。
- ⑥ 本市は金山八王子丘陵の緑と利根川や渡良瀬川の水資源に恵まれた自然豊かな地域である。これらの自然環境を活かし、グリーンツーリズムとして自然や文化と親しむことを観光資源の1つとして捉えることもでき、農業に携わりたいと考える都市部の若者たちの就労支援を併せて行うことも考えられる。
- ⑦ 工業都市である本市の特長を活かした新たな産業観光事業の開発を行う。本市は富士重工業をはじめとする多くの企業を有しているため、産業観光の観点から連携を強化していくことが考えられる。
- ⑧ 本市を中心とした広域的な観光資源と連携した新たな観光開発を行う。交通機関等の発達により物理的、心理的距離感が小さい今日においては、1つの自治体内だけにとどまらず複数の市町村の観光場所を訪れることが多い。そうしたことから、近隣市町村との連携は今以上に重要となるだろう。

## (5) 地域（市民）・民間事業者・行政の協働

### ① 地域（市民）の役割

本市全体で観光都市としての認識を共有し、本市を訪れた観光客を歓迎するというおもてなしの心を持つことを心がけ、観光客が気持ちよく本市を観光できるような環境を作り上げる。

## ② 民間事業者の役割

観光客に対する衣食住環境を整備し、観光客が観光しやすい環境を整え、観光客のニーズに応じた多様なサービスを提供する。

上州太田焼そばのれん会が中心となって、太田焼そばを日本3大焼そばとしてPRしているが、B-1グランプリを本市で誘致すれば、多くの観光客が訪れ、テレビ等により本市の名前が全国区になるため、一丸となってB-1グランプリを誘致できるように取り組むべきである。

また、本市においては、観光客が購入するお土産の種類が少ないように思えるため、今後、お土産を充実させる必要があるだろう。

## ③ 行政の役割

観光客が観光地として本市を選び、訪れ、観光し、帰るまでの観光の一連の流れを支える観光政策の立案等を行い、インフラの整備や地域、民間事業者との調整役となることが期待される。

そのためには、太田市観光基本計画等の策定や観光に関する専門部署の設置等を検討する必要があるだろう。

また、本市における観光情報について、外部（県外、国外）に対してはマスメディアなどの利用によるPRをし、内部（市内、市民）に対してはホームページや広報おた等を通じPRし、活発な情報発信をすることに取り組むべきである。

さらに、行政から東武鉄道に働きかけ、タイアップを強化させ、鉄道を利用した本市への観光客等集客の増加につながる事業の検討も必要であるだろう。

## 8 開催経過

開催日	協議事項
4月13日	1 行政審査委員会の概要説明 2 行政審査事項の決定・協議
5月25日	1 行政視察 ・富士重工業スバルビジターセンター
6月15日	1 観光行政に係る関係課ヒアリング ・商業観光課 ・都市計画課 ・文化財課
7月14日	1 観光行政に係る縁切寺館長ヒアリング ・高木館長の委員会招致
8月24日	1 審査事項の協議 ・審査事項に係る自由討議、論点の整理
9月17日	1 行政視察 ・史跡金山城跡ガイド施設 ・高山彦九郎記念館 ・世良田東照宮 ・太田市観光案内所
11月12日	1 審査のまとめ ・報告書の検討について
12月17日	1 報告書のまとめ ・報告書の原案作成・検討について
1月17日	1 報告書の提出